

# 「平野の地盤研究グループ」の活動状況について(第3報)

世話人代表 川島 隆義

## 1 はじめに

平成16年9月に発足した当研究グループは、災害年であった平成16年度は活動を休止し、グループ員は専ら災害対応に追われました。第2報で報告いたしましたように、活動は平成17年3月頃からです。

前回の報告は、平成17年12月17日までとなっておりますので、その後の活動状況を報告させていただきます。

幸い、本年4月には「新津地区(五泉・村松)」の研究成果を共同研究の(財)環境地質科学研究所研究年報 第17号に掲載、7月には当研究会の春の例会で発表させて頂くと共に、新潟応用地質研究会誌 第66号に掲載させて頂きました。

平成18年度は、引き続き「新津地区」の解析を継続すると共に、新たに「弥彦地区」に調査対象を拡大、現在資料収集中です。

尚、平成18年度からは、新たに山本 毅(新研基礎)さん、百瀬 敦(三菱マテリアル)さんの参加を頂きました。

## 2 平成17～18年度の中間報告

17年度 平成18年1月21日(土) 第5回世話人会

新津地区報告書記載内容、分担、産総研(小松原氏)打ち合わせ、資料収集対応

2月3日(金) 第6回世話人会

2月11日の研究所事務所開き、研究所使用に関する細部検討、産総研(小松原氏)との打合せ結果報告、資料収集状況報告、報告書項目決定等

2月11日(土) 平野地盤研究所(亀田町)事務所開き

2月17日(金) 報告書編集方針打ち合わせ

2月28日(火) 報告書原稿打ち合わせ

3月2日(木) 断面図検討会

3月7日(火) 報告書最終チェック打ち合わせ

3月29日(水) 報告書校正打ち合わせ

18年度 平成18年5月31日 第1回世話人会

資料解析と原稿執筆に追われ、5月の世話人会が最初です。

H18年度活動計画、継続調査内容、新規地区の資料収集、活動方向、財団の助成申請、研究会発表手法、内容等検討

6月6日(火) 当研究会報告用新断面図検討

6月26日(月) 同じく発表内容検討会(7月7日春の例会に発表)

7月5日(土) 助環境地質科学研究所助成金交付式出席

8月8日(火) 第2回世話人会

新津地区の追加調査、弥彦地区の資料収集活動、収集資料のPC入力方法、  
全員参加の方法等検討

9月1日(金) 弥彦地区資料収集県、市町機関ご挨拶

9月8日(金) 第3回世話人会

資料収集日程調整(三条市、燕市依頼)

9月15日(金) 弥彦村、加茂市、三条合庁へ資料収集依頼

11月22日(火) 第4回世話人会

資料収集状況報告、新津地区の継続解析、弥彦地区の断面線位置、新五  
泉市における市民広報活動等検討(来年秋頃開催?)

#### ア 資料収集活動

10/10 県流域下水道、10/12 新潟地域整備部、10/19新潟農地、10  
/25巻地域整備、巻農地、10/26 流域下水道(2)、10/27三条地域整備  
部、11/6 新潟市巻支所、西川支所、11/9 新潟市西川支所

(今後の資料収集活動は、12月上旬までに三条市、燕市、加茂市を終わ  
らせ、解析作業に入る予定です。)

#### イ Cグループ現地調査活動(微地形等)

資料収集の合間をぬって、小林巖雄先生を中心に安田と水原地域につい  
て9/29, 10/4, 10/13に自然堤防と旧河道の調査を行った。また、今後  
の研究補助資料とするため内陸部に分布する「亀田砂丘」の一部を歩いた。

### 3 今後の課題

本年2月に設立された「北陸地盤情報活用協議会」が運用に入り、資料収集に労力を取  
られなくなれば、効率よく解析作業は進捗するものと考えられます。しかし、DB(デー  
タベース)に登録される電子化資料は、参加機関の持ち寄りのため、電子化の予算措置が  
必要となる。過去の公共事業急伸時代に堆積した膨大な資料の電子化にも相当な経費が必  
要となろう。このため実用的な内容に整備されるまでには期間を要すると考えられ、今後  
も資料収集作業は継続する必要がある。また、国の機関が情報公開法の関係で資料公開が  
難しくなっている点を考慮すれば、DB登録後の利用に期待せざるを得ない。

### 4 おわりに

本年度から弥彦地区の資料収集に着手いたしました。県、市町村関係者はいずれも大変  
協力的で、効率的な作業が出来ました。誌上をお借りし関係機関の皆様には厚く御礼申しあ  
げます。財団の収集資料と併せ、役に立つ総合的解析に努め、成果を公表していきたいと  
思いますので、これからも御協力をよろしくお願いいたします。